

第2回松山市総合教育会議 会議録

【開会】

【市長挨拶】

(野志市長)

- ・金本委員長をはじめ、教育委員の皆様、お忙しい中、お集まりいただき、お礼申し上げます。
- ・5月に開催した第1回目では、「総合教育会議運営要綱」を定め、教育大綱の策定に向けた基本的な方向性について、協議させていただいた。
- ・また、私が思い巡らせている松山の子どもたちへの願い、公約の一つに掲げている小・中学校のエアコン整備などについて、意見交換をすることができ、大変有意義な会議であった。
- ・これまでも教育委員会と十分に意思疎通を図りながら、教育行政を進めてきたものだが、この会議の場を通じて、より一層、連携を密にしていきたいと考えている。
- ・これからの時代を担っていく子どもたちが、のびのびと学び、そして学んだことを将来、松山市のために活かしてもらえるよう、中期的・長期的な教育のあり方、課題や目指すべき姿など忌憚のない意見交換をしたいと思いますので、本日もよろしくをお願いします。

【議題(1)松山市教育大綱(案)について】

(野志市長)

- ・前回の会議では、松山市の最上位の計画である第6次松山市総合計画について、教育委員会も含め、市全体で策定し、私の公約や教育への思い、議会や市民の声も反映したものであることから、この計画の『教育に関連する部分』を教育大綱に位置づける方向でご了解をいただいた。
- ・交通の計画や環境の計画等いろいろな分野の計画があるが、第6次松山市総合計画は、その最上位の計画になる、一番新しいものである。
- ・総合計画の『教育に関連する部分』を具体的にするため、資料「総合計画と教育大綱(案)」を用意したので、ご覧いただきたい。
- ・総合計画には、6つのまちづくりの基本目標があり、この基本目標を達成するため、前期基本計画に政策を定めている。
- ・このうち、赤枠で囲っている部分の基本目標4「健全で豊かな心を育むまち【教育・文化】」には、①子どもたちの生きる力を育む、②多彩な人材を育む、③全ての人々が尊重される社会をつくる、④松山市固有の文化芸術を守り育むといった政策を定めている。
- ・松山市第6次総合計画の冊子では、17頁及び94頁から113頁にこの部分の記載がある。

- ・教育大綱は、教育の目標や施策の根本的な方針であるため、今回は、総合計画のうち、この赤枠で囲った基本目標4「健全で豊かな心を育むまち【教育・文化】」を教育大綱とし、期間は、前期基本計画にあわせて平成29年度までとしたいと考えているが、教育委員の皆様、いかがか。

(松本委員)

- ・総合計画であれば、市民もイメージしやすく、わかりやすいので、これでよいと思う。

(一色委員)

- ・総合計画であれば、市の最上位計画として位置づけられており、全庁的に取り組んでいただけるので、私共、教育の分野からすれば非常に有り難く、これでいいのではないか。

(山本教育長)

- ・大綱は、教育に関する大きな方向性や取り組み方針を示すものであり、その前提として、市の総合計画は大元になるもの。
- ・市の方向性と教育委員会のあるべき姿がイコールであるべき。
- ・大綱の中から教育の分野を抽出して問題ないと思う。

(金本委員長)

- ・人権と平和意識の醸成では、いじめ問題にも配慮されているし、社会の変化に主体的に対応した国際理解とかそういったところが全て盛り込まれていて、分かりやすい文章表現でよいと思う。

(牛山委員)

- ・国際交流と文化・スポーツがうまくつながるように書かれている。
- ・先日、機会があつて、公民館単位の地域の固有の踊りについて調べてみたが、今残しておかないと消滅してしまう様な踊りとか獅子舞のような地域独特の文化がたくさんある。
- ・そういったことから考えてもこの大綱が29年度までのものとしてあると非常にいいなと思ったので、とてもよいと思う。

(野志市長)

- ・全ての皆様にご意見をいただいた。
- ・皆様にご賛同をいただいたので、総合計画のうち、基本目標4「健全で豊かな心を育むまち【教育・文化】」を松山市の教育大綱とする。

【議題(2) 中・長期的な教育政策について】

ふるさと松山を愛する教育について

(野志市長)

- ・前回の会議で意見交換した「ふるさと松山を愛する教育」に関して、私から提案があるため、再度、意見交換をさせていただきたい。
- ・前回、教材「ふるさと松山学」は、市内41地区それぞれに、バランスよく偉人を取り上げている教材であり、松山市の子どもたちは、特色ある松山の教育として、この教材で学んでいるということであった。
- ・私も子どもたちにふるさとの事を知ってほしいし、ふるさとの先輩たちやふるさとの文化を知ってほしいと思っている。
- ・文化、歴史、先人をもっと知ってもらうことは大切だと思っていて、これは子どもだけでなく、案外大人が知らなかったりするもので、子どもから大人までより広く知ってもらいたいと思っている。
- ・そこで、「ふるさと松山学」に登場する人物や文化、歴史などを松山市全戸に配布している広報紙で紹介してはどうか。
- ・これにより、子どもから大人まで知ってもらえる。
- ・市民一人ひとりが、松山のこと、細分化すると41地区のそれぞれの地区のことを知ってもらい、愛着や誇りを持ってもらうこと、そして、笑顔になってもらうことが大事ではないか。
- ・一つひとつの地区の集まりが松山で、その集まりが愛媛で、その集まりが日本であり、やはりふるさとを愛せないと基礎は固まらないと考えるため、まずは、ふるさとを愛せることが大事ではないかと思うが、皆様の意見はいかがか。

(牛山委員)

- ・41の公民館長にお話を伺い、地域固有の踊りや伝統的な芸能について、卒論の学生と一緒に調査・研究をしているところである。
- ・なぜ、この研究の発想になったかということ実は「ふるさと松山学」だった。
- ・41地区の文化のことを、大人も知らなかったことから発想を得た。
- ・もし、そういった文化から発想を描いて、また、新たな文化や研究やいろんな人が楽しんでいけるような新しい創造につながっていけば、素敵だなと思う。
- ・広報紙等々で紹介する、もっと広く伝わるような方法を選択することはとてもいいと思う。

(一色委員)

- ・教育委員会は、学校訪問で小・中学校に行っているが、松山学についてよく勉強されていて、むしろ、私ども大人の方が意外と知らない。
- ・そういう意味で、今回、広報紙で取り上げていただくのはとても良いと思う。
- ・親の方がもっと勉強した方がいいのではないかという実感を持っている。

- ・「ふるさと松山学」の中身は良くできていて、市販されているのであれば私も買って読みたいくらい。
- ・残念ながら、市販が実現していないので、公民館に置いていただいているようだが、できれば広報紙で各家庭に届けていただいた方が有り難い。

(松本委員)

- ・私も広報紙で知らせていただけたら、とてもありがたいと思っている。
- ・松山市の教育で「ふるさと松山学」は特色ある一つだと思っている、子どもは、学校の中でしっかりとこれを活用して学んでいるけど、子どもを育てている保護者はほとんど知らない。
- ・おじいちゃん、おばあちゃんは知っていても親が知らないことも多いので、親も是非、学んでほしい。
- ・「ふるさと松山学」は子どもたちのために作った本ではあるけれど、実は松山に住むすべての人も活用できるものだと思っている。
- ・遠いところから転勤で松山に来て住んでいる保護者も多くいるので、自分の可愛い子どもを育てている縁のある松山のことを是非、知ってほしい。
- ・海外から留学で来ている、大学に進学して松山に来ているそういう大学生にも、こういうもので自分が学んでいる松山の歴史を知ってもらうことは非常にいいことだと思うので、広く市民に知らせていただきたい。

(山本教育長)

- ・現状では、「ふるさと松山学」を各学校に配置・配布していて、子どもたちは、朝の読書の時、国語や社会の調べ学習などの授業で使っている。
- ・これは学校の中だけで、学校関係者は知っているが、家庭まで持ち帰れてない状況である。
- ・そんな中で、ふるさとに素晴らしい人がいるなら、是非、家庭でも知ってほしいと思う。
- ・尚且つ、私の立場で言うと、議会答弁の中で「ふるさと松山学」を使って子どもたちのふるさと教育を、という意見を言っているのでどンドン一般市民の方にも知っていただきたい。

(金本委員長)

- ・「ふるさと松山学」の本ができた以降を「ふるさと松山学」と捉えるのではなくて、例えば、正岡子規の俳句に新井満さんがメロディをつけた『春や昔』を明日、明後日の小中学校合同の合唱会の小学校の全体合唱で歌うことになっていて、そういうものも「ふるさと松山学」に含めたらいい。
- ・教材が主にはなるが、ふるさと松山を愛して、ふるさと松山を大切にし、ふるさと松山に誇りを持つ、そういう児童生徒を育成することが「ふるさと松山学」だと思っている、広義で捉えた方がいい。

- ・満さんがつくられた『この街で』は、「ふるさと松山学」に豊かな彩りを与えてくれた大変貴重なメロディーではないかと思っていて、「ふるさと松山学」に含めてもいいと思う。
- ・「ふるさと松山学」は学校では浸透はしているが、案外、保護者の方は分からない。
- ・それは「ふるさと松山学」だけではなく、松山市の教育がどういう方向を向いているかを案外、松山市民は知らない。
- ・松山市教育委員会では「ふるさと松山学」を核に据えた教育を推進していることを、広報まつやまに、できれば1、2頁で大きく載せる。
- ・「ふるさと松山学」は、松山市内の小学校や中学校の実践事例、国語、社会、総合的な学習、道徳の授業でも使えるもの。
- ・特色ある学校経営の中で、このように「ふるさと松山学」をうちの学校ではやっていますよという内容を広報まつやまに大きく載せ、できたら毎号小さいコラムも設けていただく。
- ・昔、私たちの学校の特色、有名先生をシリーズでやっていたこともあったが、実践事例も載せたらいいし、「ふるさと松山学」の対応や内容も特集を組んでもらいたい。
- ・無理は言わないが、教育方面の内容が広報紙には少ないので、一番後ろのカラーくらいで大きく載せていただけたらいい。

(山本教育長)

- ・最近、文部科学省でアクティブラーニングということが言われている。
- ・子どもたちが自分たちで考えて問題を解くことが今、問われている。
- ・教育委員会の立場から言うと、自分たちの地域でこんな人がこんなところがあると、子どもたちが学習して、子どもたちの言葉でそういうものを紹介する形もいい。
- ・やり方はいろいろあるかもしれないが、子どもたちが実際に自分たちで考えて作って、それを広報紙で皆さんにお知らせすることが、教育委員会として思いつく一つの形である。

(野志市長)

- ・子どもたちの言葉で紹介したらどうかという意見があった。
- ・確かに広報紙は松山市のいろんな事業があって各課が知ってほしい、知ってほしいと総花的になってしまう。
- ・私も金本さんと考えが同じところがあり、総花的に発信するのも大事だが、実は最近の広報紙は、松山のおもてなしについて特集するとか、歩いて楽しい街づくりについて特集するとか、こういう想いでやっているという部分を少し取り入れている。
- ・「ふるさと松山学」について、松山の皆さんに知ってほしいと思っているが、教

育をどういう方向でやっているかについては案外、知られていないので、広報とどういうやり方ができるか考えてみたい。

- ・山本教育長が言われたように、せっかく小中学校で「ふるさと松山学」を学んでいるので、子どもたちが子どもたちの言葉で紹介するというのは面白い。

(牛山委員)

- ・広報紙は、色々な特集が組まれていて、すごく工夫していると思う。
- ・総花的と言われたが、必要な情報を載せようとする編集する方の努力がすごく感じられる。
- ・こうなったらいっそう、日本一面白い広報紙とか、日本一面白い形をした広報紙、こうやって折っていくと鶴が折れるとか、何かこれで日本一有名になることもできるのではないかと思う。
- ・脱線して申し訳ないが、教育文化は想像力や発想の柔軟性が大事だと思う。
- ・市民が必ず広報紙を手にとって開けるには、そういう面白い工夫が必要ではないか。

(野志市長)

- ・確かに、市民が必ず広報紙を手にとって開けるには、面白い工夫が必要だと思う。
- ・現地現場の声を大切にするため、子育て世代を対象にしたタウンミーティングをしている。
- ・その中で、子育てに関する情報は広報紙のどこを見たらいいのかわからないという声があり、2カ月くらい前から、子どもに関する募集や問い合わせを子どもコーナーとして、後ろ2面にまとめるようにした。
- ・全部、総花的にするのではなく、子どもについてまとめ、子育てに関する情報を欲している方には分かりやすく見やすくなるように変えた。
- ・広報紙は1日と15日に届いてはいたけど、あんまり見なかったと言われるより、現地現場の声で出来るだけ見ていただける、ある意味、とがった特徴のある広報紙として、教育について載せていくのもいいと思う。

(金本委員長)

- ・学校で実践していることは間違いないが、更にその学校教育の中での「ふるさと松山学」の深化・拡充やより多様な活用を図るために、例えば教員に指導資料的なものを作るのはどうか。
- ・総合計画の冊子のように200頁まではいかなくても、100頁でもいい。
- ・予算の問題もあるが、指導資料的なものを作ってほしい。
- ・今、文部科学省が道徳の教科化を打ち出していて、道徳を教科と位置付け、評定も行う。
- ・「ふるさと松山学」の先人100話には、道徳の教材として活用できるものが沢山あり、道徳だけではなく、国語や社会科などの全教育活動で使える。

- ・全教育活動で、このような活用をすればこういった成果がでるという指導・実践事例集を教育委員会で作って、各学校に配布し、各学校でさらに活用を図ってもらう。
- ・予算が100万程度伴うが、今度できる教育センターの教育研究者が作るのも一つの方法だと思う。
- ・こうすることで、更に「ふるさと松山学」は充実すると思う。

(山本教育長)

- ・確かに活用方法は大事で、せっかくあるものをいかに有効に使うかということで先生に十二分に作ってもらわないといけない。
- ・具体的にこういう使い方をすればよい効果が出るという実践事例集は、形になった段階から予算化が伴うもので、形になってからの話であると思う。
- ・必要なものだと思うので、決して否定するものではない。

(野志市長)

- ・山本教育長の子どもから発信するとの意見をイメージしてみると、例えば、伊予餅を作られた鍵谷カナさんを地元の垣生小学校の子どもが紹介するとなると、どのような流れになるのか。
- ・垣生小学校の先生方が、作っていく子どもたちを指導する形になるか。

(山本教育長)

- ・一つは学校の先生がどこまで関わるかということ、もう一つは行政の広報紙などで担当部局に入ってもらってうまく連携することがある。
- ・その中で、紙面の問題もあるだろうし、どの程度のスペースを確保するかということや編集のタイミングもあるだろうし、その辺りの調整が必要と考える。

(金本委員長)

- ・確かに広報まつやまに載せるのであれば、子ども自身が研究した形で、自分たちの郷土の先人を子どもの言葉で掘り起こした表現の方が市民に分かりやすい。
- ・教師サイドの地域の報告ではなく、もちろん先生も一緒に協力して、最終的には子どもの言葉で表現することがいいのではないかと思う。

(野志市長)

- ・今の子どもたちは、コミュニケーションが少し下手と言われている。
- ・人に話す、人に伝えられる基本として5W1Hとよく言われるが、その基本が欠けると記事として伝わりにくいところがあるから、そういう勉強にもなる。

(牛山委員)

- ・子どもの生の声を拾うのであれば、市の広報が入って、子どもがインタビューし

ている言葉や様子の中から取り上げる方法もある。

- ・先生が入り過ぎない形で、子どもたちのレポートという形が取れた方がいいのではないか。
- ・やはり先生にとってみたら、広報紙の紙面になるとちょっと力が入り過ぎてしまうことがあるのかなという気がする。

(金本委員長)

- ・ほとんどの学校では、総合学習の時間で「ふるさと松山学」を使って郷土学習をしている。
- ・「地域素材の教材化」と専門用語では言うが、地域教材を授業で活用して、子ども自らが主体となって取り組むという実践は、ある程度している。
- ・特別に広報まつやまに載せるために作るとしたら、新たに市の職員が入って、学校もしんどくなる気がする。
- ・子どものレポートのまとめは、総合的な学習でするはずなので、その中から優秀作やグループで研究したものを先生に選んでもらい、限られた紙面にまとめるくらいで良いと思うし、できると思う。
- ・一人取り上げるも二人取り上げるも、それは学校にお任せしますと広報の方から言っていて、学校に任せていただいた方がやりやすいと思う。

(野志市長)

- ・重なるようなことは避けるべきである。
- ・具体的手法については検討させていただいて、出来るだけ早く実現できるようにするということよろしいか。
 《 教育委員 了承 》
- ・ありがとうございました。

(仮称)教育センターについて

(野志市長)

- ・私からばかりではいけないので、委員さんから何かテーマはないか。

(牛山委員)

- ・先ほどの金本委員長の話にもあった「ふるさと松山学」を教材化していったらどうかという意見も含めて、今回、新たなテーマとして、来年4月に開設される「教育センターについて」協議したい。

(野志市長)

- ・教育センターは来年の4月に開設され、愛媛大学がちょうどお隣ということで、関心も高いのではないかと思います。
- ・それでは、牛山委員から「教育センターについて」ご提案があったので、このテ

ーマについて意見交換をしたい。

（牛山委員）

- ・愛媛大学では、来年の 4 月から私が在席する教育学部が社会共創学部に移るため、教育学部の先生と話す機会がある。
- ・来年 4 月開設の教育センターについては、教職員の資質能力の向上のためには、もちろんのこと、今後の松山市を担う子どもたちのためにも大変、重要なものだと考えている。
- ・現状で言うと、教育学部の教員の中でも保健体育科教育の先生はどんどん現場の学校に出ていき、学生も使って、現場の先生と協議しながら授業の教材研究をするなど、色々なことをやっている。
- ・授業をした後、省察していき、次にどういう授業をしていけばいいかなど、一つ一つの授業の内容やカリキュラムの編成まで、わが愛媛大学をプッシュするわけではないが、松山市との場合はかなり密接にやってきている。
- ・ただ、愛媛大学の関わり方としては、個人の教員が研究の一環として学校と関わってきたことが多かった。
- ・この教育センターが東雲小の跡地にできることを聞いた時に、愛媛大学としては自分たちに出来ることがぱっと見えたという感じで取り組んでいる。
- ・個人対応としてではなく、一つのプロジェクトとして、センターの中に拠点を大学連携室という形で置いていただけることで協働でき、共に汗を流しながら、子どもとその周辺の環境や P T A の方と一緒に研究ができることで、非常に地の利も生かしたいいいセンターなのではないかと考えている。
- ・今、センター内の大学連携室のことだけ触れたが、ここに学校の先生が来やすい環境が一番大事である。
- ・小中連携研究をしている東雲小学校と東中学校が同一敷地内にあるということもあるし、小中連携を研究する最先端の研究センターとしていただきたいことが私たちの最大の願望である。
- ・小学校は小学校で終わって、中学校は中学校で終わってではなくて、先生方の連携ももちろん大事だが、教育の連携もすごく必要だと思っている。

（山本教育長）

- ・実は、松山市教育委員会と愛媛大学教育学部との連携協力ということで、平成 14 年に覚書を結んでいる。
- ・これは、教育実践と教育研究のためにお互いに協力していこうということで、年 2 回の連絡協議会を開き、学部長や私、そして先生方が出席して、実践協力や実績報告を行い、協力体制について協議している。
- ・例えば、おもしろ理科教室などが、実際に大学の先生が小・中学校に行き、授業を行い、その授業を小・中学校の先生が見て勉強しており、実際、連携をしている。

- ・今回の教育センターの設置により、もう少し踏み込み、もちろん地の利も活かした大学連携室という部屋を一つのキーステーションという形で設けて、大学との連携をより密にして、教材資料作成や授業研究などの様々な連携をより強力な形で推進していこうと考えている。

(一色委員)

- ・学校訪問で気になった点として、ICT教育を上手に取り入れて活用している先生もいるが、中には十分活用できていない現場もある。
- ・これからコンピュータ社会が浸透してくるわけで、子どもの方が先進的ではないかという時代もくるのではないかと思うので、教育センターでどのようにICT活用の研究をしていくのか、その先端的な開発技術を教育ではどうやって取り入れていくのか、ということも併せてやっていただけたらいいのではないか。
- ・もちろん、板書で教える、ノートを取らせることも一つの教育なので必要だが、これだけコンピュータ社会が浸透してくるとICTの活用も教育現場として考えなければならない時代だと思う。
- ・この教育センターで、その面についても十分研究開発をしていただければありがたい。

(松本委員)

- ・教育委員会として、松山の子どもたちが学びやすい環境づくりを進めているが、一番大事なものは、教員の資質であり、魅力ある教員を育てていかなければならない。
- ・今まで、そういう研究をしたり、協議したり、育てる場が無かったが、今回教育センターという形になったので、大いにここを活かしてすばらしい教員育成が推進できるセンターとしていきたい。

(金本委員長)

- ・情報教育というか、電子黒板・大型テレビ等は全学級にあり、設備は非常に充実していて、松山市は最先端をいっている。
- ・ただ、それを活用する側の先生の個人差はあるため、技術も含め、教育センターで研究をしてもらいたい。
- ・大学との連携も出たが、あの場所は非常にめぐまれており、日本赤十字病院もある。
- ・日本赤十字病院には、心療内科や精神内科の先生もいるので、不登校やいじめの問題、特別支援のサポートが必要な場合にそういったところとのタグが必要である。
- ・愛媛大学と日本赤十字病院のど真ん中に教育研修センターができるので、活用方法によっては、大きく言えば、条件も整っている所以で日本一だと思う。
- ・松山の保護者や地域から、センターが充実している松山で教育を受けさせたい、

となるためには、指導主事が何人配置されるか、所長が誰になるのかなど、あとは人材が重要と考えている。

- ・一番費用がかかるのは人件費であるため、来年度はその辺りを検討してもらいたい。
- ・センターに行ったら勉強になって、それが子どもたちに返ってくる、家庭教育や社会教育、親の教育に返っていくような教育情報発信センターにしていかなければならない。
- ・やはり優秀な人材をたくさん配置してほしいし、ソフト面をお願いしたい。

(山本教育長)

- ・畳み掛けるようだが、私からも重ねてお願いしたい。
- ・教育委員会として、教育の中身については我々がきちんとしなければならないが、予算的なことになるとやはり、市長部局となり、環境づくり、人の問題や財政的な問題になるとどうしても市長の協力が必要である。
- ・こういった総合教育会議は、そういう意味でも意義のあるものだと思う。
- ・改めて、予算の確保をよろしく願います。

(野志市長)

- ・松山市だけではなく、平たく言うと、1,700ある市町村はどこも厳しい財政状況である。
- ・松山市の財政はたちまちどうこうなる状況ではないけれども、油断はできない厳しい財政状況ということに変わりはない。
- ・先日、前橋市で行われた中核市サミットの中で、厳しい財政状況を踏まえ、少子化も伴い教員数を削減していくという国の考え方に対して、「教育現場の実態に即した教職員定数の改善・充実に関する緊急要請(案)」を中核市市長会として提出することが議題とされた。
- ・国の財政が厳しいから削減はしなければいけないのだろうけれども、安易に全体の流れで教育の削減はいかかなものかなと思う。
- ・日本は、しっかり英知結集して切り開いてものづくりしていかないと生きていくべきがないと思っているので、教育は最後の最後に手をつけるべきと私は考える。
- ・江戸から明治で歴史的に言うと、松山は幕府側だったので、薩長土肥はどんどん出世できたが、松山は教育で出世するしかなかった。
- ・秋山兄弟や子規もそうだったように、松山にとって教育は歴史的にも大事だった。
- ・また、コンパクトシティだからこそ、東雲小学校と東中学校、愛媛大学と日本赤十字病院が近くにあり、松山にとって本当に教育は宝だと思うし、国全体にとっても教育は宝であるべきだと思う。
- ・コンパクトシティだからこそ、この教育センターが生きてくると思うので、財政は厳しいが、出来る限り人員配置もしていきたいし、この宝を活かしていきたいと思っている。

(牛山委員)

- ・イメージの問題だが、松山市教育センターとなると、県の教育センターをセンターと呼んでいてそういうイメージがついてしまっているのでは、行きたくなるような、県の教育センターと区別できる新鮮な名前が良いなと思っている。
- ・例えば、「コムズ」のような可愛いニックネームがあったらいいなと思う。
- ・もちろん格式ある松山市教育センターという名前もいいが、可愛いニックネームがあると先生方もあまり肩に力を入れずに立ち寄れるのではないだろうか。
- ・何かいいネーミングはないか。

(野志市長)

- ・県の教育センターもあり、市の教育センターもあると、また似たようなものができるのかで終わってしまうともったいない。
- ・こういうものができますよと周知する手法として、名前の公募も一つの方法だと思う。
- ・様々な手法があると思うが、公募を含め、こういう教育センターができることを知ってもらおうチャンスとして検討したい。

(山本教育長)

- ・名前の付け方は非常に難しく、いわゆる堅苦しい場合と愛称がある。
- ・そこで、愛称をつけるという方法も一つある。

(野志市長)

- ・中核市サミットでは、松山市の子育て支援について発表させていただき、この中で、閉店した大街道の時計店をリニューアルして設置した『てくるん』を発表し、注目を浴びた。
- ・『てくるん』は、中央商店街をてくてく歩いてるんるん気分という意味である。
- ・5つの目的で作成、障害のある方からの声で、高島屋や三越には障害者用の多目的トイレがあるが商店街にはないことと、オフィスビルがたくさんあるのでそこで保育ができればということ、親が買い物に来るが子どもを連れてではなかなかできないので託児ができる場所があれば気分転換に買い物ができるということと、商店街の方からイベントスペースが欲しいと言われていたこと、ベビーカーや車いすの貸し出しや携帯の充電ができる場所を作ろうということで『てくるん』ができた。
- ・これを発表したら、結構注目していただいたので、『てくるん』のような愛称をつけることも考えたい。

(金本委員長)

- ・愛称としては、松山の教育で必ず子規が思い浮かぶ。

- ・子規ほどふるさとを愛し愛された人はおらず、皆に「のぼさん」と呼ばれている。
- ・思いつきだが、松山を代表するような「のぼさんセンター」などの愛称があると思う。

(野志市長)

- ・来年4月にセンターができるので、皆さん英知を結集して、いい愛称が付けられればと思う。
- ・そろそろ予定していた時刻となったが、その他にないか。
 《 意見なし 》
- ・様々なご意見をいただき、ありがとうございました。
- ・皆様方には、教育の現場に足を運んでいただき、子どもたちの様子や先生の様子を見て、現場の意見を反映した声やこれまでの経験に基づく意見をいただけて、本当に有り難く思っている。
- ・改めて、教育委員の皆様のご尽力に感謝申し上げます。
- ・次回の総合教育会議について、来年度の早い時期に開催したいと考えるが、いかがか。
 《 教育委員 了承 》
- ・ご賛同いただいたので、次回、総合教育会議は、来年度の早い時期に開催する。

【閉会あいさつ】

(金本委員長)

- ・笑いもあり、協議もでき、率直な意見交換ができた。
- ・松山市でいじめゼロミーティングをしているが、ただ挨拶するだけではなく、小学生や中学生の班に入って参加している市長はあまりいないと思う。
- ・市長からいろんな学校の現場にも行きたいとも言われたし、市長がいろんな場所に参加していただいて教育委員としても非常にありがたいと思っている。
- ・次回の総合教育会議も楽しみにしている。

【閉会】